

溺水

項目	日本版救急蘇生ガイドラインに盛り込むべき内容	採用の理由、および指導上の留意点など
BLS	<ul style="list-style-type: none"> ・溺水の傷病者は水から救助し、早く蘇生処置を行うべきである。 ・水中における蘇生は人工呼吸のみを行なうが、訓練された救助者の場合に限り実施されることが望ましく、その際は救命胴衣を着用することが望まれる。 ・飛び込みや、ウォータースライドの使用、外傷、アルコール飲酒など脊椎損傷の危険因子、外傷の臨床的徴候あるいは神経学的異常のある傷病者については、頸椎、脊椎の安定化を図るなど、潜在的な脊髄損傷があるものとして処置をすべきである。 	
ALS	<ul style="list-style-type: none"> ・低体温合併例の小児では人工心肺の使用を考慮する。 ・ステロイド、一酸化窒素、心拍再開後の人工心肺による加温、低体温療法、バソプレシンは、考慮してもよいが、有効とする根拠は不十分である。 	